

学会賞受賞者講演

発達支援における親支援の重要性 —発達段階に応じたよりよい支援の検討—

尾花 真梨子（江戸川大学社会学部人間心理学科 准教授）



講演内容

このたびは奨励賞をいただき、誠に光栄に存じます。丁寧にご指導いただきました先生方、研究や臨床実践にご協力いただいた皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

私はこれまで、子どもの学校適応に関心を持ち、主に攻撃性の観点から検討を進めてまいりました。それと並行して、心理職として発達支援や子育て支援に従事し、特に広く発達の障害を抱えるお子さんとそのご家族、彼らを支える保育者や教師、支援者が持つさまざまな困難さに触れる場面がありました。現在、我が国では、発達障害者支援法において家族支援の重要性が謳われ、発達障害者支援施策として「ペアレント・トレーニング（parent training; PT）」の普及が推進されています。PTは、親が子どもに対する適切な支援方法を身につけることで、子どもの行動の改善や発達の促進を目指す介入アプローチであり、多くの医療機関や相談機関で積極的に行われています。近年では、その対象が青年期にまで拡大され、PTの枠組みを援用した「ティーチャーズ・トレーニング」が実践されるようになるなど、多様なプログラムが開発・実践されるようになってきています。子どもたちの健やかな育ちを保障するために、周囲の大人が工夫できることとは何か、親支援という文脈での効果的な専門家同士の協働とはどのようなものか、そのようなことを考えながら日々の研究・臨床実践に向き合っております。

今回の講演では、特に発達上の困難さを抱えるお子さんやその周囲にいる大人への支援に焦点を当て、PTを中心とした親支援における工夫や配慮等について、これまでの臨床実践を基に皆様と共有できれば幸いです。

プロフィール

栃木県出身。東京学芸大学大学院教育学研究科修了、筑波大学大学院3年制博士課程人間総合科学研究科単位取得後満期退学。修士（教育学）。公認心理師、臨床心理士。東京学芸大学教育実践研究支援センター特任講師、立正大学心理臨床センター助教を経て、2018年より現職。大学附属心理相談センター併任教員を務める傍ら、幼稚園のカウンセラーや発達支援に携わる専門職向けの研修講師などを務めている。

主な著者・論文

- ・尾花 真梨子・濱口 佳和・江口 めぐみ (2013). 児童の関係性攻撃と適応との関連の検討 筑波大学発達臨床心理学研究, 24, 35-42.
- ・尾花 真梨子・沖 郁子・秋山 舞香・上田 聖・郷 昇旺・小島 慶子・宍戸 孝明・中莖 里実・長野 笑美・皆川 佳織・中田 洋二郎 (2016). ペアレント・トレーニングへの参加による“気づき”の検討 立正大学臨床心理学研究, 14, 65-83.
- ・尾花 真梨子・桑原 千明・水野 雅之・皆川 佳織・古屋 真 (2017). 小学生の攻撃行動生起に対する認識の検討—場面と動機の観点から— 立正大学臨床心理学研究, 15, 9-17.
- ・尾花 真梨子 (2019). 自閉スペクトラム症の男子高校生の母親に対する心理面接過程 —就労移行期における障害受容に着目して— カウンセリング研究, 51, 168-177.
- ・尾花 真梨子・倉田 由美子・神崎 亮佑 (2022). 大学生の認知した親からの期待と養育態度がアイデンティティに及ぼす影響 江戸川大学紀要, 32, 165-174.